



地域医療連携ニュース

発行：兵庫県立加古川医療センター ☎ 675-8555 加古川市神野町神野 203 番地 <http://www.kenkako.jp/>
TEL : 079-497-7000(代表) TEL : 079-497-7011(地域医療連携部直通) FAX : 079-438-3756(地域医療連携部直通)

も	・新年挨拶	1	5
く	・生活習慣病センター	2	6
じ	・血液浄化センター	3	7
	・リウマチ膠原病センター	4	8
	・肝疾患センター		
	・内視鏡センター		
	・脊椎外科センター		
	・外来診療表		



新年挨拶

新年おめでとうございます。平素より当院の運営に格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年も、ロシアのウクライナ侵攻がいまだ収束せず、物価高も落ち着く気配は全くなく、熊による被害の多発など、暗いニュースが多くなった1年でした。明るいニュースは、困った時の大谷頼りで、大谷の3年連続MVP、ドジャースのワールドチャンピオン、阪神のリーグ優勝ぐらいでしょうか。医療界においても、全国的に、病院の経営危機がニュースとなり、当院におきましても、開院以来の赤字を計上してしまいました。昨年度に、循環器内科の常勤医師が一身上の都合で退職しましたが、神戸大学に常勤医師の派遣を要請しており、近い将来、派遣していただけるものと考えております。現在は、非常勤医師を週3日派遣していただいており、今のところ業務に大きな支障はありません。地域の皆様に置かれましても、安心して、これまで通り、患者さんのご紹介をいただけましたら幸いに存じます。

また、昨年の4月より、主にパーキンソン病患者に対するリハビリ治療を行う、神経難病センターを開設し、おかげさまで、非常にうまく立ち上げることができました。これも地域の皆様の協力のおかげと感謝しております。パーキンソン病患者は増加傾向にあり、今後も、量だけではなく、質の高いリハビリを提供できるよう、職員一丸となって取り組んでいく所存です。

さて、今年は午年です。馬は古来より人々の生活に深く関わり、その駆ける姿から「物事が“うま”くいく」「幸運が駆け込んでくる」など、大変縁起の良い動物とされています。また、「午」の文字には「伸びる」「発展する」といった意味合いもあり、活発な行動力と相まって、何事においても前進・発展していく年になると言われています。

当院におきましても、この午年のごとく、地域医療の向上に向けて力強く、そして着実に前進してまいりたいと考えております。「患者様一人ひとりに寄り添う医療」を旨とし、職員一同、「馬が合う」ように密に連携を取りながら、「やさしさとぬくもりのある質の高い医療を実践し、地域の基幹病院として住民の安心に貢献します」という当院の理念を大切にし、より質の高い医療サービスの提供に努めてまいる所存です。本年も、全職員が一丸となって、皆様に信頼され、“ケンカコ”に紹介してよかったですと思つていただけるようにがんばりたいと思います。

皆様の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



院長 田中宏和



生活習慣病センター



糖尿病・内分泌内科部長 兼 生活習慣病センター長

田守義和

生活習慣病とは

生活習慣病は、近年ではWHOが定義する「非感染性疾患（NCD：Non-Communicable Diseases）」と呼ばれ、心臓・脳血管疾患、がん、糖尿病、慢性呼吸器疾患などが含まれます。日本では、全死亡の8割以上にこれらの疾患が関与していると報告されており、健康寿命を延ばすためには、生活習慣病の予防と適切な管理がとても重要です。

当センターの取り組み

加古川市を含む東播磨地域は、糖尿病・高血圧・脂質異常症など、生活習慣に関連した疾患が多い地域とされています。兵庫県立加古川医療センターでは、2009年の新病院移転に合わせて「生活習慣病センター」を設置し、地域に根ざした予防・診療活動を継続して行っています。

生活習慣病センターでは、内科系・外科系を中心に、多職種が連携した4つのチームを編成し、相互に情報共有や合同カンファレンスを実施することで、効率的かつ質の高い診療を目指しています（図1）。また、病院1階には、患者さんが気軽に立ち寄り、生活習慣病に関する知識を主体的に学べるスペース「学習ひろば」を設置しています（写真1・2）。



写真1 生活習慣病センター「学習ひろば」
平日毎日9:00～12:00開館



図1 生活習慣病センター各チームの活動

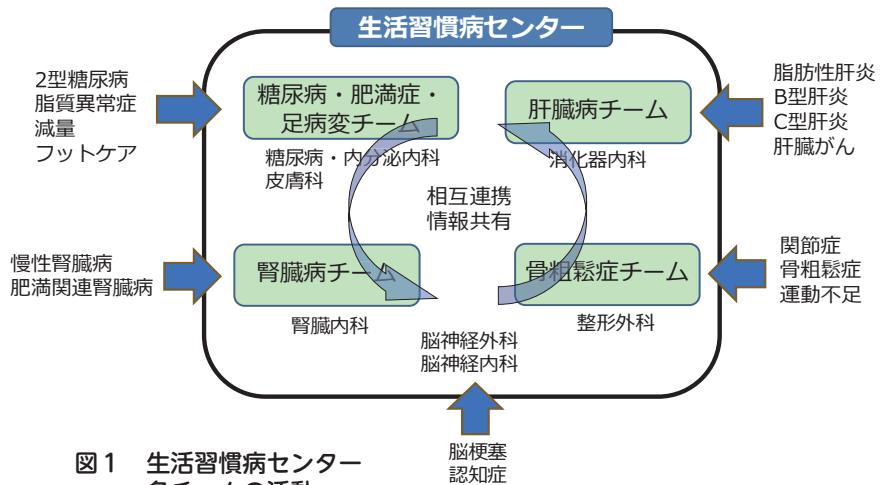


写真2 「学習ひろば」の内部



さらに、各チームでは年間を通して、一般の皆さまが参加できる外来健康教室を複数回開催し（写真3）、生活習慣病に関する正しい理解と予防のための情報発信に努めています（写真4）。ぜひ一度「学習ひろば」にお立ち寄りいただき、展示資料をご覧いただくとともに、教室にもご参加いただければ、日々の健康づくりに役立つ多くの気付きが得られることと思います。

生活習慣病センターは、地域の医療機関の先生方と協力しながら、今後も県民の健康増進に向けて取り組んでまいります。今後とも、生活習慣病センターをどうぞよろしくお願ひいたします。

外来教室案内	
いきいき健康講座（月曜日）	
糖尿病のお話	1月10日(火) ～毎月第2木曜日午後1時～
糖尿病と運動	1月25日(水)
糖尿病と食事	2月5日(水) ～毎月第3水曜日午後1時～
糖尿病と認知症	2月19日(水) ～毎月第4水曜日午後1時～
糖尿病と脳梗塞	3月2日(水)
糖尿病と骨粗鬆症	3月9日(水)
糖尿病と脳梗塞	3月16日(水)
糖尿病と運動	3月23日(水)
糖尿病と食事	3月30日(水)
糖尿病と認知症	4月6日(水)
糖尿病と脳梗塞	4月13日(水)
糖尿病と骨粗鬆症	4月20日(水)
糖尿病と脳梗塞	4月27日(水)
糖尿病と運動	5月4日(水)
糖尿病と食事	5月11日(水)
糖尿病と認知症	5月18日(水)
糖尿病と脳梗塞	5月25日(水)
糖尿病と骨粗鬆症	6月1日(水)
糖尿病と運動	6月8日(水)
糖尿病と食事	6月15日(水)
糖尿病と認知症	6月22日(水)
糖尿病と脳梗塞	6月29日(水)
糖尿病と骨粗鬆症	7月6日(水)
糖尿病と運動	7月13日(水)
糖尿病と食事	7月20日(水)
糖尿病と認知症	7月27日(水)
糖尿病と脳梗塞	8月3日(水)
糖尿病と骨粗鬆症	8月10日(水)
糖尿病と運動	8月17日(水)
糖尿病と食事	8月24日(水)
糖尿病と認知症	8月31日(水)
糖尿病と脳梗塞	9月7日(水)
糖尿病と骨粗鬆症	9月14日(水)
糖尿病と運動	9月21日(水)
糖尿病と食事	9月28日(水)
糖尿病と認知症	10月5日(水)
糖尿病と脳梗塞	10月12日(水)
糖尿病と骨粗鬆症	10月19日(水)
糖尿病と運動	10月26日(水)
糖尿病と食事	11月2日(水)
糖尿病と認知症	11月9日(水)
糖尿病と脳梗塞	11月16日(水)
糖尿病と骨粗鬆症	11月23日(水)
糖尿病と運動	11月30日(水)
糖尿病と食事	12月7日(水)
糖尿病と認知症	12月14日(水)
糖尿病と脳梗塞	12月21日(水)
糖尿病と骨粗鬆症	12月28日(水)

写真3 令和7年度後半の健康教室予定表
→詳しくは、病院ホームページをご覧下さい



写真4 腎臓病教室の風景



血液浄化センター



腎臓内科医長 兼 血液浄化センター医長 山本 真有佳

平素より貴重な患者さんをご紹介頂きまして誠にありがとうございます。慢性腎臓病（CKD：尿の異常またはeGFR 60未満が3か月以上続く）という言葉も以前に比べると広く知られるようになり、各種ガイドラインも整備されてきました。厚生労働省は2028年に新規の透析導入患者数を35,000人にする目標を示していますが、2023年時点では新規透析導入患者数は38,764人となかなか減りにくい状況です。この目標数に少しでも近づけるためには、健康診断での拾い上げ（CKD患者の早期発見）、CKD診療の標準化と透析予防などが重要です。CKD患者数は多く専門医のみでの管理は困難であり、かかりつけ医との連携が重要とされています。また、慢性腎臓病に対する新規治療薬導入に際しても合併症評価と精査が必要です。

以下に当院腎臓内科の特色を列挙いたします（2025年7月の地域連携会議でも掲示させていただきました）。



- ✓ 検尿異常（蛋白尿・血尿）や慢性糸球体腎炎（ネフローゼ症候群を含む）の精査加療後、随時地域の先生方への逆紹介・併診も行います。
- ✓ 糖尿病性腎症重症化予防を重視し、糖尿病教育入院にも参加します。
- ✓ 腎代替療法が必要となる患者さんには療法選択のご説明を行います。（血液透析は当院で導入入院後、ご希望に応じて地域透析施設ご紹介）
- ✓ 腎臓内科外来は血液浄化センター（透析室）の隣にあるため、腎代替療法を身近に感じていただき、連携もスムーズです。
- ✓ 外来通院透析や、入院が必要な透析患者さんの透析併診も行います。
- ✓ 血漿交換等のアフェレーシス療法も積極的に行ってています。

お気軽にご紹介ください！

いらすとや https://www.irasutoya.com/2013/06/blog-post_7981.html.
https://www.irasutoya.com/2015/03/blog-post_80.html.
https://www.irasutoya.com/2014/11/blog-post_37.html.



また、2026年3月28日～31日に横浜で世界腎臓学会が開催されます。



35年ぶりの日本での開催となるため、私達にとっても一生に1度もしくは2度あるかといった貴重な機会となります。2026年は腎臓学会にとっても節目の年であり、私達も世界にも通用する腎臓・透析診療を実現するため、精進し続けていきたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

リウマチ膠原病センター

リウマチ科部長 兼 リウマチ膠原病センター部長

村田 美紀

当リウマチ膠原病センターは、現在内科医11名、整形外科医2名の計13名による5診体制で月曜から金曜まで診療を行っています。リウマチ学会専門医が7名（うち指導医6名）在籍し、より高度で最先端の医療を提供できるように日々努めております。

●リウマチ科は断らない！

当科の基本姿勢は、“リウマチ科受診を希望される患者さんは断らない”としております。

紹介患者だけではなく、予約のない初診患者さんもすべて診察するように努めています。

●対象疾患

当センターで診療している患者さんは関節リウマチが約6割を占めていますが、その他、シェーグレン病、全身性エリテマトーデス、強皮症（全身性硬化症）、リウマチ性多発筋痛症、混合性結合組織病、多発性筋炎/皮膚筋炎/免役介在性壞死性ミオパチー、RS3PE症候群、巨細胞性動脈炎、ANCA関連血管炎（顕微鏡的多発血管炎・多発血管炎性肉芽腫症・好酸球性多発血管炎性肉芽腫症）、結節性多発動脈炎、乾癬性関節炎、成人スチル病、ベーチェット病、サルコイドーシス、強直性脊椎炎、高安動脈炎、免疫性血小板減少症、掌蹠膿疱症性関節炎/SAPHO症候群、IgG4関連疾患、偽痛風など多岐にわたっております。

●当センターでの治療

関節リウマチの薬物治療は飛躍的に進歩しており、効果の高い生物学的製剤（注射薬）やJAK阻害薬（経口薬）なども次々使用可能になっており、現在は「寛解」を目指して早期から抗リウマチ薬によって治療することが推奨されています。関節リウマチ以外の自己免疫疾患全般の治療についても様々なガイドラインが作成され、免疫抑制剤や生物学的製剤による治療が日々更新されており、当センターでは最新の薬物治療に関するご相談にも対応いたします。かかりつけ医の先生方との病診連携もさせていただきます。

また関節リウマチ患者さんの装具作成や外科的治療手術等につきましても、当センターの整形外科医が対応します。手指、足趾はもちろんのこと脊椎を含めたありとあらゆる関節の、様々な外科的治療について、どのような問題にも相談に応じます。





肝疾患センター



副院長 兼 肝疾患センター長 廣畠 成也

当院は開院以来、肝疾患診療には特に力を注いでおり、県の肝疾患専門医療機関として東播磨圏域の中核的な役割を担っています。近年は、糖尿病や肥満などの生活習慣が深く関与する脂肪性肝疾患（MASLD/MASH）が増加しており、生活習慣病センターと連携して幅広い患者さんを対象に診断と治療、生活習慣の介入を行なっています。

1階の「生活習慣病センター 学習ひろば」で「肝臓病教室」を毎月開催しています。医師だけでなく、薬剤部、栄養課、検査部、リハビリ部、看護部各部署がその日のテーマに沿った講義を行い肝臓病に対する知識や理解を深めていただいている。参加は無料で予約不要です。当院の患者さん以外も大歓迎ですので地域の患者さん、ご家族へお知らせいただければ幸いです（詳しくは病院ホームページをご覧ください）。

2022年3月に厚労省より各医療機関に対し、医療機関の規模を問わずB/C型肝炎ウイルス検査を行った場合その結果の説明を確実に行い受診につなげるよう取り組むよう通達が出されました。当センターでもこれを踏まえ、肝疾患センターコアスタッフが協力して陽性者の発見と受診勧奨に力を入れています。また肝炎ウイルス陽性者はもちろん、未検者や陰性者であっても、肝機能異常（ALT > 30IU/L）の患者さんがおられましたら遠慮なくご紹介いただきますようお願い申し上げます。

兵庫県は全国平均よりもまだまだ肝癌が多い県です。肝疾患センターでも10名以上の肝炎コーディネーターを活用して、医療現場と患者さんに様々な形で情報提供・情報共有をして参ります。これまで以上に病診・病病連携を深め、地域の先生方さらには患者さんと一緒に病気に取り組むセンターを目指して参りますので、気軽にご紹介・ご相談ください。



肝疾患センターコアスタッフ

- 肝臓専門医・消化器病専門医
- 肝炎医療コーディネーター
- 消化器内科外来スタッフ（兼任）
- 生活習慣病センター認定専門看護師（兼任）
- 生活習慣病センター 肝臓チームスタッフ（兼任）





内視鏡センター



内視鏡センター長 兼 消化器内科部長

塙本 喜雄

2018年4月1日に内視鏡センターが設立されてから、7年6ヶ月が経過しました。2020年3月以降は新型コロナウイルス感染症への対応に追われる日々が続き、一時的に内視鏡件数は減少しましたが、現在はコロナ前の水準へと戻りつつあります。院内では、消化器内科のみならず、消化器外科、救急科、総合内科と幅広く協力しながら、内視鏡診療に取り組んでいます。

内視鏡センターでは、医療レベルの向上のため、以下の取り組みに力を入れています。

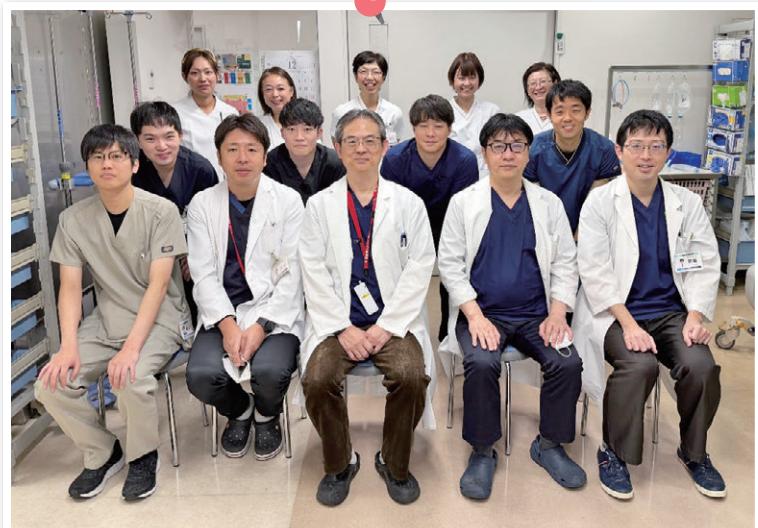
まず、最新機種を導入し、最先端の技術を提供できる体制を整えています。日常診療では、ハイスペックな拡大観察可能な内視鏡をほぼ全例に用い、見逃しのない詳細な診断に努めています。さらに、神戸大学の胆膵グループから超音波内視鏡医の派遣を受け、EUSやEUS-FNAを指導下で施行しています。また、消化管病理専門医を招いて月1回のカンファレンスも開催しています。

当院は、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本消化器病学会認定施設に認定されています。図書（『胃と腸』『肝胆膵』などの専門誌を5種類以上定期購読）や最新ガイドライン、さらにUpToDate、ClinicalKeyなどの検索ツールを充実させ、内視鏡トレーニングモデルも整備することで、内視鏡専門医を目指す医師の教育・育成にも注力しています。

内視鏡センターでは、患者さんの安心と安全にも重点を置いています。毎年受けても負担が少ないよう、安全で苦痛の少ない内視鏡検査を心がけています。また、患者さんの不安を軽減するため、プライバシー保護にも十分配慮しています。地域連携にも注力しており、近隣の医療機関へ積極的に情報を発信し、開業医から直接ご紹介いただいた患者さんに当日内視鏡を施行できる体制も再開しています。詳細は当院ホームページをご覧ください。

ESD、EMR、ポリペクトミー、EVL、胃瘻造設といった通常の内視鏡治療に加え、緊急内視鏡（止血術・異物除去など）や食道・大腸ステント挿入といった緩和的処置まで幅広く対応しており、臨床的貢献は多岐にわたります。

消化器内視鏡の魅力の一つは、診断から治療まで自身で完結できる点にあります。例えば、早期胃がんや食道がんを内視鏡で発見し、そのまま自ら内視鏡治療できることは、医師として大きなやりがいの一つです。私たち医師・看護師を含めた内視鏡スタッフ一同は、内視鏡を通じて地域の皆さまの健康と幸福に貢献できるよう、日々研鑽を重ねています。



脊椎外科センター

副院長 兼 脊椎外科センター長 高山 博行

初診は月曜・水曜日の整形外科初診1で受け付けております。慢性疾患は基本的には、投薬やブロック注射などの保存的治療が無効の場合に手術を施行しますが、手術は最新の機器、手技を導入し、できるだけ低侵襲を目指しています。

最も多い腰部脊柱管狭窄症や腰椎椎間板ヘルニアに対する手術は、原則として**内視鏡や顕微鏡を使用しての低侵襲手術**を行っています。低侵襲だけでなく、脊椎手術では非常にデリケートな脊髄神経を扱うことも多いため、できるだけ**術中脊髄機能モニタリング**を併用して安全な手術を行っています。

コンドリアーゼ椎間板内酵素注入療法：2018年に我が国で認可された腰椎椎間板ヘルニアに対する最新の治療で、椎間板内に注入することにより、椎間板内の水分が吸収されて内圧が下がり、椎間板ヘルニアを縮小させるという作用機序です。アレルギーなどのリスクはありますが、重篤なアナフィラキシーショックなどの報告はなく、椎間板ヘルニアに対する治療の幅が広がりました。当院はコンドリアーゼ注入療法の認定施設であり、数多くの使用実績があり、ヘルニアのタイプによっては手術と同等の治療成績が期待できます。

ナビゲーションシステム：脊椎すべり症や脊柱変形、脊椎損傷では脊椎固定術が必要です。当院では、最新のナビゲーションシステム、解像度が高く術中CT撮影も可能な透視装置Oアーム（写真1）を導入しています。低侵襲かつ低被爆、正確性の高い脊椎スクリュー挿入が可能であり、すべての脊椎固定術にこれらを使用しています。また、高齢者の著しい脊柱変形や、多椎間の脊柱管狭窄症などで、広範囲の脊椎固定術を要する症例も増えています。こういう広範囲の脊椎固定術は侵襲が非常に大きくなりますが、できるだけ低侵襲とするための**経皮的スクリューや前側方進入椎体間固定（LLIF）**なども行っております。椎体周囲の脈管の位置を充分に精査した上で、神経モニタリングも併用しながらLLIFを行っています。

また骨粗鬆症による脊椎椎体骨折もますます増加しており、保存的治療でも除痛が得られない場合には、**Balloon Kyphoplasty（BKP）**の適応となります。これは骨折して圧潰した椎体をバルーンで膨らませて整復し、セメントを注入して固める低侵襲手術であり、即時性の除痛効果があります。当院はBKPの認定施設にもなっております。

2018年に「脊椎外科センター」が開設されて7年になります。コロナ禍の2020年～2022年は診療制限もありましたが、現在はそれもなくなり、昨年度は過去最高の手術件数（365件）を記録しました。非常に多くのご紹介を頂き、誠にありがとうございました。今後とも、脊椎外科センターへの多くの紹介をよろしくお願ひ申し上げます。



写真1 Oアーム





県立加古川医療センター外来診療表



2026年1月5日(月)～

		月	火	水	木	金
総合内科	初診	石田	大北	藤田	担当医	中村
消化器内科	1 診	塙本(さかもと)	安富	田村	【伊(ゆん)(再診のみ)	塙本(さかもと)
	2 診	廣畠	森口	廣畠	廣畠	安富(午前)森口(午後)
	3 診	河原			白川	布目(午後)
循環器内科	1 診	再診のみ	担当医		担当医(～14時) 【ペースメーカー】	担当医
脳神経内科	1 診	下村	奥田	一角	高原	奥田
	2 診		土田(午前)	下村(午後)		一角
糖尿病・内分泌内科	1 診	合田	藤田	田守	石田	樺谷
	2 診		大西	稻山		前田
緩和ケア内科	入棟面談	担当医		担当医		担当医
	サポートイブケア外来 (緩和ケア外来)	田中	田中(午後)	田中(午前)		
生活習慣病			【戎谷(えびすたに)(午前) 【坂田】(午後) 糖尿病・肥満	【合田】 糖尿病・肥満	【西山】 糖尿病・肥満	担当医(午前)
			装具外来 (第2・4午前)			
リウマチ科	1 診	中川	塩澤	塩澤	天野	中川
	2 診	田中	上藤	青崎	仲	仲
	3 診	仲	吉原	吉原	吉原	担当医
	4 診	村田	西田	村田	村田	担当医
	5 診	並木		原井川		北野
腎臓内科	1 診	午後	藤川	加藤	担当医	藤川(2,4週午前) 加藤(1,3,5週) 北浦(2,4週)
外科・消化器外科	1 診	小林	川嶋	小林	交代制	担当医
	2 診	中川	松下	門馬(もんま)		中山
心臓血管外科			担当医			担当医(午後)
脳神経外科	1 診	担当医	荒井	森下	担当医	荒井
	2 診		松島	荒井		松島
乳腺外科	1 診	再診のみ	石川		石川	
整形外科	初診 1 診	青木	上藤	高山	市村	中川
	初診 2 診	高原		北山	神村	
	骨粗鬆症 午後	【上藤】		【北山】		
形成外科	1 診	櫻井	交代制	櫻井	櫻井	櫻井
	2 診	相原		相原	相原	相原
	3 診	佐竹		佐竹	佐竹	佐竹
	4 診	小堀		小堀	小堀	小堀
皮膚科	初診／予診	稻守	永松	南	竹内	稻守
	1 診	竹内(午前)	川田	川田	稻守	川田
	2 診	永松(午前)	南	永松	南	竹内
眼科	1 診	薄木(午後)	薄木			薄木
	2 診	徳川	徳川	徳川		徳川(第3)
	3 診	秋田(第2・4)				
泌尿器科	1 診	担当医	金	田中	担当医	田中
	2 診		大場			大場
放射線科	(IVR)	担当医		担当医		担当医
	(治療)	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

予約受付時間 平日 9:00～18:30 土曜日 9:00～11:30(祝日除く)

※各科診療予定は変更される場合がありますので、あらかじめご了承願います。

※【 】は予約できませんが、特別に受診を希望される場合等は、ご連絡下さい。

お願い 患者さんの待ち時間短縮のため、FAXまたはインターネットで初診予約をお取り下さい。
インターネットで初診予約を行う場合は、登録医の登録をお願いします。

～地域医療連携部よりお知らせ～

2026年2月28日(土)に当センターにおいて病院フェスタを開催します。
ご参加のほど、よろしくお願ひいたします。